魚津で暮らす女性の
ライフスタイルmook

ウオヅとワタシ

2017
Spring

1

創刊号

魚津で暮らすということ。
女性であるということ。
やりたいこと。
夢。
誰かと話すことで気づくことがある。

Love, Uozu.

わたしたちが好きなものはここにある。
わたしたちが好きなひとはここにいる。
わたしたちが暮らしているのはこんなところ。

それを伝えたくて
「ウオヅとワタシ」は生まれました。

「ウオヅとワタシ」は、※SODOが発行する
魚津で暮らす女性のライフスタイルを発信する冊子です。
冊子を年に数回発行するほか、
起業セミナーなどの関連イベントも随時開催しています。

What's Kome SODO?

※SODOとは？

いま、若い女性の人口減少への対応が魚津市の大きな課題となっています。そんな中、2016年10月に新しいプロジェクト・チームを結成。その名は「※ｓｏｄｏ（コメソウドウ）」。

魚津は米騒動発祥の地。生活を守りたいと奮起し、行動を起こした女性たちの歴史が刻まれたこの地で、私たちにもできることをやってみようとの想いから命名し、活動しています。

魚津で暮らすことを決めた私たち。魚津で活躍している女性やいろいろなコトを知るたび、前よりもっと魚津を好きになっています。私たちはこれから、少しずつですが自分たちでできることを探して、この想いを発信していきます。

ホントは冷静な話し合いだった!?
魚津で起こった米騒動とは。

大正７年の夏。この時起きた米騒動を体験した女性、
川岸きよさんのお話をご家族に聞きました。

きよさんは19歳で漁師の夫と結婚。
近所の主婦たちが集まる井戸端会議では、日々、
値段が高くなる米の話題で持ちきりだったそうです。
「米を県外に積み出すから魚津に米が少なくなり値段が高くなるんだ」
と話し合い、積み出しの中止を頼むことに。

米騒動が起こったのは、きよさんが23歳の時。
子どもを背負って商店に行ったこともありました。

この魚津の女性たちの行動が全国に広がり、
時の内閣を総辞職に追い込んだことは、
暮らしを守る魚津の女性の意志の強さ、実行力を感じさせます。

1

魚津で暮らすひと。

鬼塚（おにづか） 仁奈（にな）さん

1977年生まれ
大阪府池田市出身

魚津中央通り名店街。
昔ながらの店舗が並ぶ中、
ここに写真スタジオが
あっただろうか。
ビルの2階へと続く階段の下で、
かわいらしい看板が迎えてくれた。
このスタジオを立ち上げたのは、
魚津歴5年、
鬼塚仁奈さんである。

写真を仕事に

以前は大阪で、インテリアの仕事に携わっていたが、出産やご主人の転勤により仕事を退職し、魚津へ移住。一度は離れた仕事だったが、もう一度インテリアに関わりたい、という強い気持ちを持ち続けていた。写真館を営んでいた祖父をはじめ、父や従兄弟などが写真に関わる仕事をしていたことが写真を仕事にするきっかけとなった。身近に先輩がいるという環境はあったものの、写真を始めたのは単純に好きだからというだけではなかった。仕事を始めるなら、在庫を抱えないこと、予約制であること、そして自分一人でできること、が自分に課した条件であり、これなら自分にもできると思った条件。それができるのが写真だった。インテリアの知識も活かし、自分で表現できる場を持ちたい。その思いが、現在の鬼塚さんのスタイルにつながっている。当時、母親に「自分でお店をひらく」と伝えるには不安もあったという。「子どもが小さいうちは、母親は家庭に専念すべきだ」と考える人も少なくはない。しかし、「子どもが大きくなるのを待っていたらチャンスを逃してしまうから早めにやったほうがいいんじゃない？」と鬼塚さんの母は、背中を押してくれた。「頑張りなさい、と励ましてくれた母の言葉がとても嬉しかったですね」と笑顔をこぼす。スタジオは、2016年春にオープンを迎えた。

▲スタジオ内のインテリアにも鬼塚さんならではのこだわりが

苦労と出会い

やわらかい雰囲気で語る鬼塚さんからはあまり感じられないが、当然オープンにいたるまでは様々な苦労があったという。新たに機材を購入し、投資金額が大きくなるにつれ、不安が頭をかすめた。「周囲には言っていなかったですけど、あまり楽しめてなかったですね、オープンまでは」と当時の気持ちを笑って振り返る。

スタジオをオープンして1年。これまで様々な出会いがあった。「オープニングイベントでポストカード撮影をした2組の妊婦さんは特に印象に

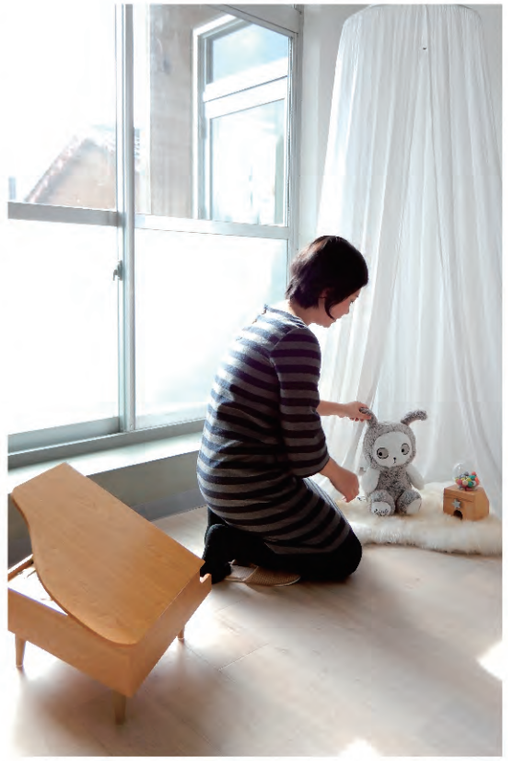
▲子どもの前では、優しい母の表情に

残っていますね」。その後、二人とも無事出産し、産後一〇〇日のお祝いで、赤ちゃんと一緒に再びスタジオへ。さらにお子さんだけではなく、母の日にはお母様との撮影にも来てくれたといい、家族の記念の節目や、思い出作りに何度も来てくれるお客様との出会いに、「一緒に成長を見守る叔母のようでしょう」と嬉しそうに話す。

魚津だからできること

魚津はコスト面でも家賃が安く、新規事業の補助金の受け皿も広い。また、都市部では待機児童が多く、なかなか保育園に子どもを預けることができないが、魚津は待機児童がゼロである。「働くお母さんには魚津は良い環境。地域が支えてくれたところもたくさんあって、大阪にいたら今のようにスタジオを持ってオープンすることはなかったと思います。魚津だからできたかな」と振り返る。

とはいえ、魚津での暮らしに不便さを感じることはないだろうか。「私、雪はちょっと嫌ですけど」と笑いながら「でも雪国である魚津でしか体験できないこともありますし、食べ物もおいしい。最高ですよ」と魚津での暮らしを楽しんでいるよう。「特に、魚は魚津の食べ物の中で一番好きです。スーパーの魚が安くて、その場でさばいてもらえるし、使い勝手も良いですね。ほうぼう、カワハギ（肝つき！）、おいしいですよね。珍しい魚とか朝獲れの魚、ホタルイカが手軽に食べられるのも最高です」と、魚津の新鮮な魚のおいしさに魅了されているようだ。


▲スタジオ内ではお客様を飽きさせないディスプレイを心がけている

新たな挑戦

今後は、スタジオに着付けの講師を呼んで撮影をしたり、外に出てロケをしたりと、他の分野とのコラボレーションを企画中だ。

「楽しいです。ずっと続けていきたいですね。自分でインテリアのスタイリングを手掛け、さらに撮影もできる形にたどり着きたいと思っています」

このスタジオは終着点ではない。やわらかな笑顔の中には、きらきらした未来の鬼塚さんが見えた。

決まった正解がある仕事であれば、経験や学校で学ぶ必要があるのかもしれない。

「表現するのは自由だから、自分が目指したものが撮れたらそれが正解なのかなとは思っています。毎回、もっとこうしたら良かったな、っていう反省は必ず出てきますけど。撮影では、リピートしてもらいたい！と思って丁寧に撮っています」

自分らしいスタイルを自分の手で作り、広げていく。これからの鬼塚さんに注目だ。

▲家族と過ごすひとときは幸せいっぱい

鬼塚さんのスタジオはこちら

tete studio works

〒937-0055
魚津市中央通り1-4-8
駐車場共同組合2F
tel.090-9868-7097

http://tetestudioworks.wixsite.com/tete-studio-works/home

2

魚津で暮らすひと。

南部（なんぶ） 歩美（あゆみ） さん

1985年生まれ
富山市出身

大人でも迷い、失敗する。
ママがやりたいことをやって
充実していたら、子どもたちにも
充実した心で接することができる

この春で32才。
職業は藍染め屋。
2012年、徳島で藍染めを学び
3年後の秋、魚津で始めた。

藍染めへの思いときっかけ

南部さんと藍をつなげたのは、北海道紋別市の森の中で、染めと織りをして暮らす、通称「おばば」との出会いがきっかけだった。

「子育てが生活の真ん中にあった私にとって、そこでの体験が忘れられないものとなりました。それから5年の月日が流れ、これから何をして富山で生きていこう。そう考えた時に紋別の森の中で染めた光景が頭に浮かび、『藍だ！』と思ったんです。2012

▲藍の話となると止まらなくなる南部さん

年の冬に徳島で藍染めを習ってから、3年後の秋に魚津で藍染めを始めるまで、藍染めへの思いを募らせながら日々悶々と過ごしていました」と、藍と生きる道を選んだ最初の気持ちを伝えてくれた。

実際、藍染めを本格的に始めたのは昨年の秋から。2014年から魚津で住み始めて、藍染めができる環境が整ったことで、2015年秋に小さな甕（カメ）、藍との暮らしをスタートさせた。

「ちょっとずつでも藍染めに興味をもってくれる方が出てきてくれたりすることが、藍染めを続けていくためのモチベーションにつながります」

最近では、藍染めとのコラボ商品の話も増えてきたという。

魚津のすきな景色と藍色

2人目を妊娠している時は、毎日のように長女と海辺を散歩するのが日課。「海の色って藍色に見えません？」青っぽい色を見たらすぐに藍色に繋げてしまうお母さんに、娘さんも呆れているそうだ。

「ねえ見てよ、めっちゃ山、藍色に見えん？」

「見てよ、あの空、藍色！」

「見てよ、あの海、藍色！」

日々、色を変える山や海、空を見るたびに自然の色そのままを藍染めで表現したい。それは、山と海が近いからこそ浮かんだ思いなのだろう。「魚津の好きなところは海と山と空が見えるところ」迷いなくそう答える。京都にいた頃、大文字山のような低い山を見ても青くは見えなかった。群生している木まで見える緑色。富山は海から山が近く、ましてや3000メートル級の大きな山が近くにあるからこそ青く、富山独特の色に見える。山が青いという表現は、富山だからこそ。他県では見られない独特で、なかなか無い景色なのだろう。だからこそこの景色が好きだと語る。

「魚津は、海もあるし山も見えるし。山と海が本当に近くて風景も変わりますよね」

山から海、その間ほんの20分。この近さもいいなと思えるという。

▲水が冷たい冬場は染めるにも大変

▲希望通りに染まっているか入念に確認

▲染色後は縫製。藍に染まった手にも味が

子どもに見せたい背中

今の時代、「自分の趣味ややりたいことが見つからない。夢や希望だけでは生活できない」。そんな声をよく耳にする。

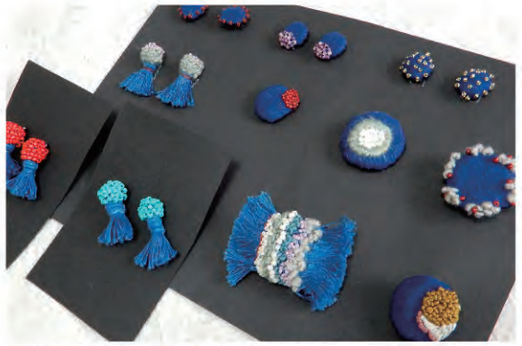
「それでいいのかなって。家族も子どももいるし、無茶は出来ないことを分かってはいるけど、自分が満足していないと子どもを満足して見つめることが出来ない。自分勝手だよね」と複雑そうに笑う。

「でもね、ママがやりたいことをやって充実していたら、あなたたちに対しても充実した心で接することができるから」

大人でも迷い、失敗をする。どうしたら良いか分からなくて悩むこともある。悩みながら進むその不完全な背中と、迷いながら、でも一歩一歩進めば何か『かたち』になっていくことを証明したい。これが南部さんの子育てなのだろう。

お金がないからといってできない言い訳を並べたくない。確かに、達成が難しい目標もあるが、今の自分の状況から何か少しでもアクションを起こしていけば、大きなアクションに繋がると信じているという。

やりたいことはあるが、全部実行すれば時間がいくらあっても足りない。やりたいことはたくさんある。「なかなか実行できないってことは、まだそのタイミングじゃないって思ったりするんですよね」。


▲隣市・滑川市在住の刺繍作家AOIさんとのコラボ作品

藍染めと目標

今年は、知人から借り受けたという畑で藍の種をまく。藍は一年草なため、夏には生い茂り、秋には花を咲かす。

「葉を摘んで染めるまでを、自分ひとりだけじゃなく誰かと一緒にやりたい」。藍染めを知ってもらうことはもちろん、藍染めを通して伝えたいこと、感じたいことがある。

そして、工房を構えたい――夢を語る南部さんの頭にはすでに実現に向けた計画が練られているのかもしれない。

魚津での生活

都会にいると付き合いや繋がりが表面的なパターンがたくさんあるだろう。

一方で、魚津にいると家同士がくっついているため、どこへ行くにも近所の人たちに会う。会えばあいさつも話も交わす。

「一人で何かをやろうと思っても限界がありますけど、色んな人と関わり繋がっていくことで幅も世界観も広がる。良い事ばっかり言ってくれる人だけじゃないかもしれないけど、良い面も悪い面もあるのがいい。知れば知るほど魚津って面白い」

そんな南部さんだが、魚津に住みにくさを感じることもあるはず。

「魚津に限らず富山は金沢のような大都市ではないし、車がなくては移動も大変。だけど、魚津での暮らしに不便さや住み心地の悪さは感じないです。少し車で走れば、桃山運動公園にアスレチックがあって子どもを遊ばせることもできる。海も山も近い。それだけでいいんです」

ここが好き、ここが嫌いといった決定的なものはない。「なんとなくしっくりきています」。

それが魚津を好きな理由だ。

▲子どもの肌着も、もちろん藍色で

南部さんへのお問い合わせ

※SODO事務局

魚津市役所2F 地域協働課
女性活躍社会推進室

tel.0765-23-1131

E-mail
chiiki-kyodo@city.uozu.lg.jp

PROJECT

※SODO ミッション・レポート

「女性のための起業支援セミナー」、開催しました。

2017.3.12 SUN 11:00-13:30 @ホテルグランミラージュ

魚津市で起業経営をしている女性による、トークイベントとランチ交流会を開催。
ゲストのみなさまには、起業のきっかけや実体験など、貴重なお話をしていただきました。

魚津で暮らす女性を増やそう！

**この冊子を、お子様やご友人など
女性におすすめしてくださいませんか？**

魚津市は近年、若者、特に20・30代の女性の人口が減ってきています。
この冊子では、魚津で暮らす女性に関する「ヒト」「モノ」「コト」を取り上げています。

Uターンを考えている方。魚津への移住を考えている方。
進学や就職で魚津を離れるかどうか迷っている方、など。
この冊子を通じて、より多くの方々に
魚津で生活する魅力を感じてほしいと願っております。

「魚津のいいとこ・いいものを伝えたい」。
「自慢のライフスタイルがある」。
「お気に入りのお店を紹介したい」。
「魚津での暮らしを満喫している女性を紹介したい」。
魚津のとっておきの情報を、私たちに教えてください。

また、私たちと一緒に活動してくれる仲間も大募集！
お気軽にお声がけください。

お問い合せ先
※SODO事務局　魚津市役所2F 地域協働課 女性活躍社会推進室
TEL.0765-23-1131
[E-MAIL] chiiki-kyodo@city.uozu.lg.jp

「ウオヅとワタシ」創刊号、
いかがでしたか？
次号は2017年夏以降の
発行を予定しております。
お楽しみに♪

ウ オ ヅ と ワ タ シ

第1号・創刊号

発行日　2017年3月31日

発行　魚津市 地域協働課 女性活躍社会推進室
〒937-8555 富山県魚津市釈迦堂1-10-1
T E L　0765-23-1131
F A X　0765-23-1051
E-MAIL　chiiki-kyodo@city.uozu.lg.jp

企画　※SODO

編集・デザイン　ホリデザイン制作室

写真　鬼塚仁奈（表紙、2ページ）
※SODO（3〜9ページ）
アベトモミ（裏表紙）

表紙モデル　※SODO

イラスト　サキ（※SODO）

Special Thanks
森永琢馬（魚津市地方創生アドバイザー）

印刷・製本　魚津印刷株式会社

◎本紙の無断転載、複製を禁じます。
©2017 ※SODO All Rights Reserved.

「ウオヅとワタシ」は、『にいかわの守紙』を使用しています。
紙を通じて森を守る。にいかわの守紙は、魚津の間伐材を有効活用するために生まれた紙です。